

看護系大学における 防災マニュアルの実用化に向けて ～三重大学の防災・減災対策の構築状況～

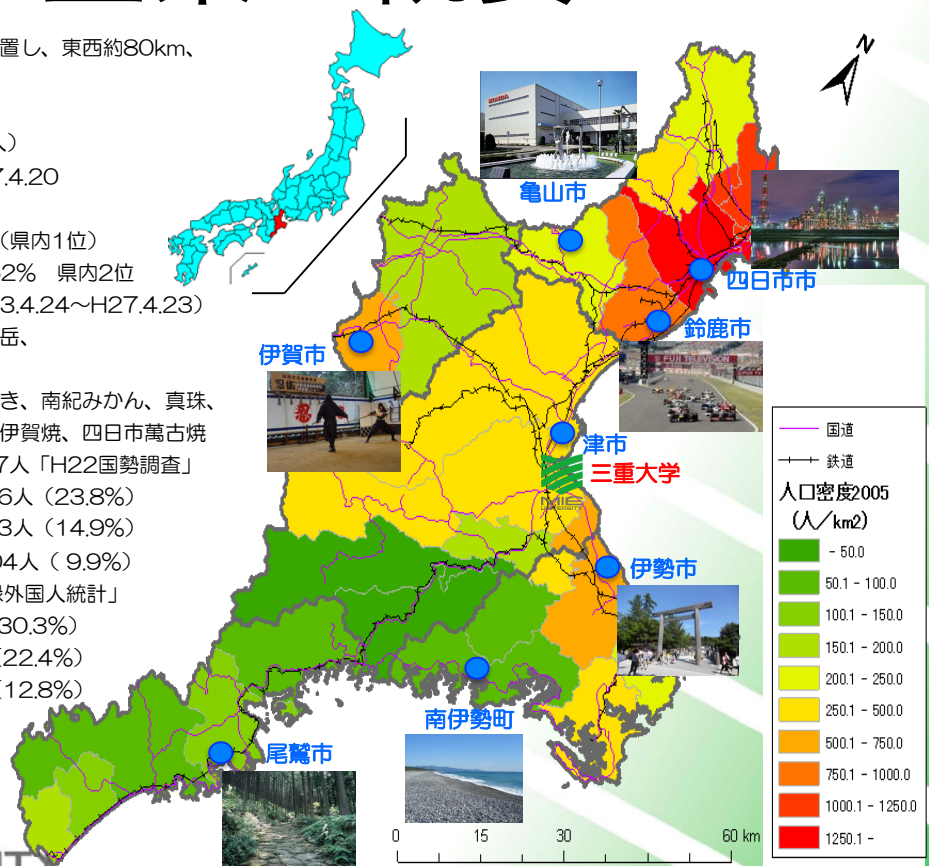
平成26年度 日本看護系大学協議会 防災研修会
2015年3月29日(日)@聖路加国際大学アリスホール

三重大学大学院工学研究科／地域圏防災・減災研究センター
三重県・三重大学 みえ防災・減災センター
川口 淳



三重県の概要

- 【地勢】日本列島のほぼ中央、太平洋側に位置し、東西約80km、南北約170kmの南北に細長い県土
- 【人口】182万8,393人（H25.12.1現在）
（男89万142人 女93万8,251人）
- 【知事】鈴木英敬（39才）H23.4.21～27.4.20
- 【市町】29市町（14市、15町）
- 【県庁所在地】津市 総面積 710.81km²（県内1位）
人口 28万5,635人 15.62% 県内2位
市長 前葉泰幸（51才）H23.4.24～H27.4.23）
- 【名所】伊勢神宮、鈴鹿サーキット、御在所岳、赤目四十八滝、熊野古道
- 【三重ブランド】松阪牛、伊勢えび、的矢かき、南紀みかん、真珠、あわび、伊勢茶、ひのき、伊賀焼、四日市萬古焼
- 【産業】15歳以上の就業者 89万5,097人「H22国勢調査」
- | | |
|------------|------------------|
| 1位 製造業 | 21万2,856人（23.8%） |
| 2位 卸売業、小売業 | 13万3,343人（14.9%） |
| 3位 医療、福祉 | 8万8,904人（9.9%） |
- 【外国人登録者数】4万1,811人「H24登録外国人統計」
- | | |
|---------|-----------------|
| 1位 ブラジル | 1万2,674人（30.3%） |
| 2位 中国 | 9,354人（22.4%） |
| 3位 韓国 | 5,360人（12.8%） |



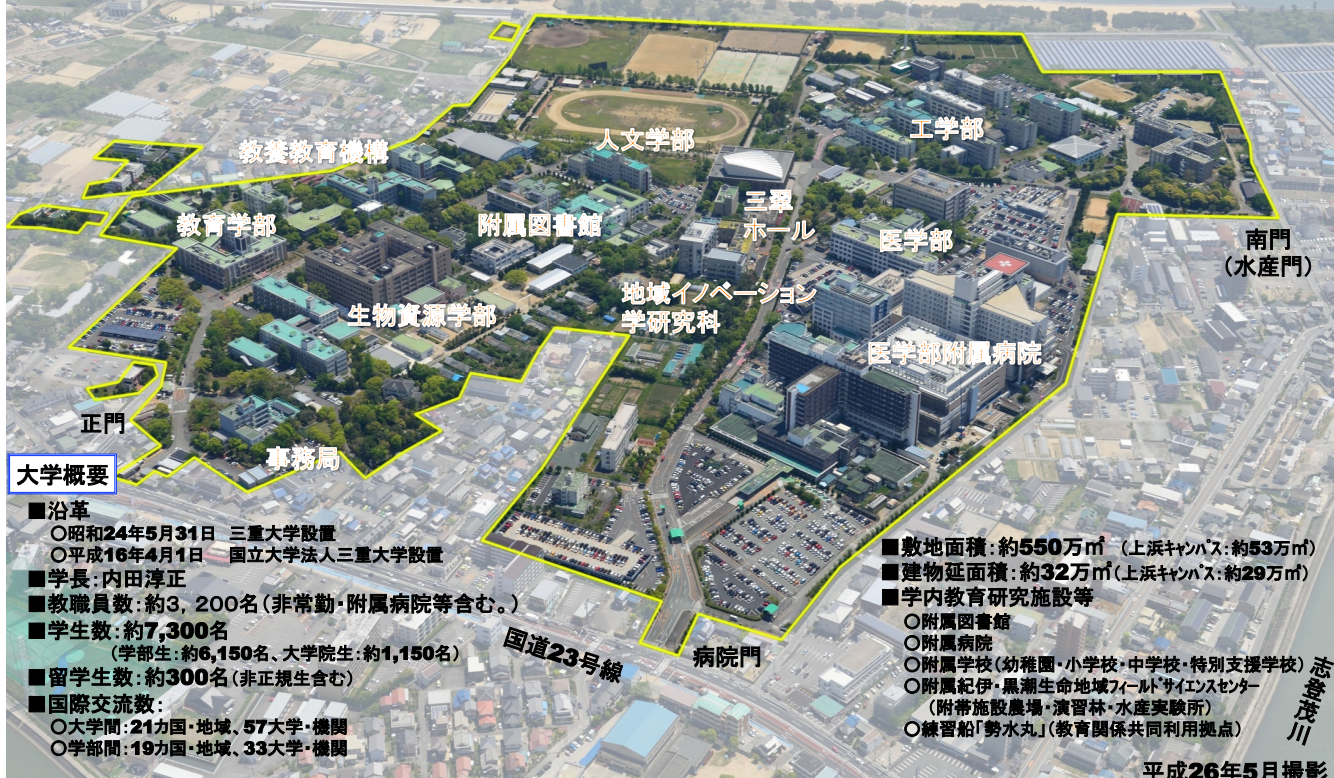
三重大学上浜キャンパス

資料No1

◎伊勢湾に面する、三翠(波の翠、空の翠、樹の翠)キャンパス

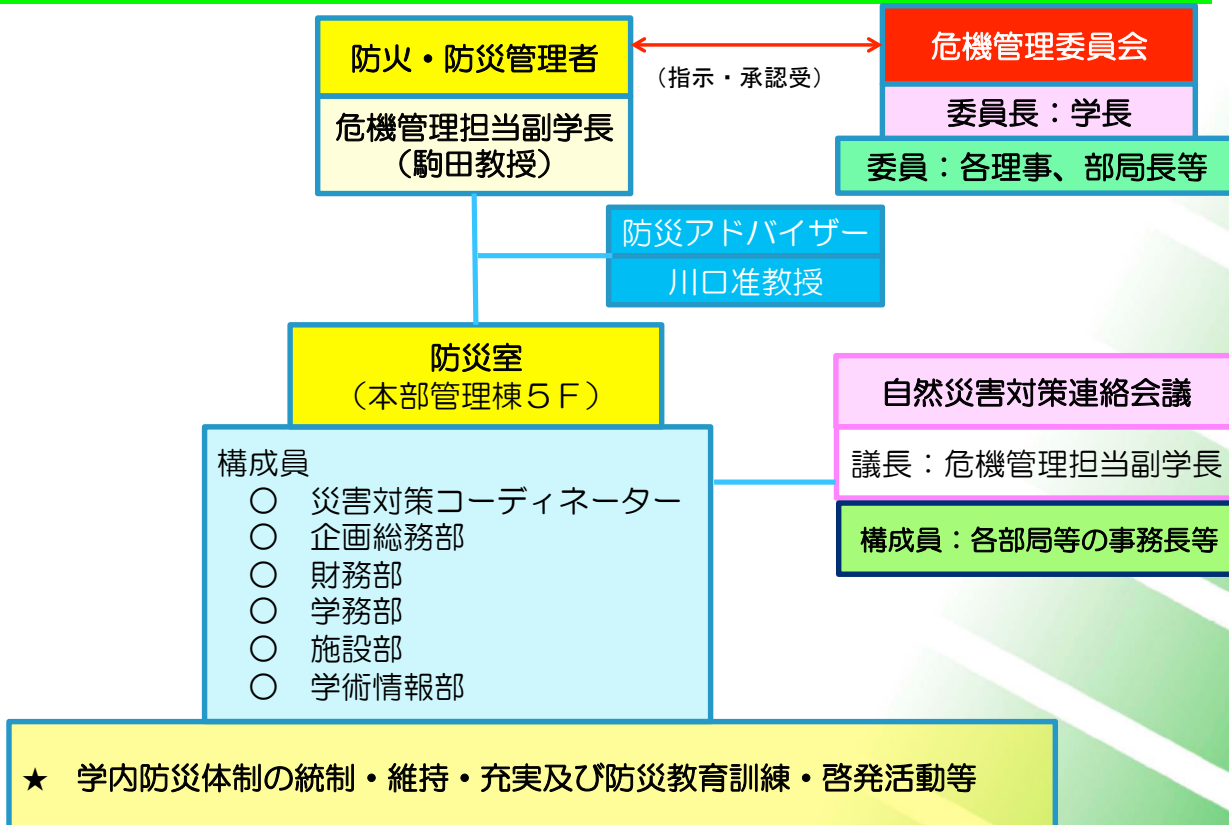
伊勢湾

◎5学部(人文学部、教育学部、医学部、工学部、生物資源学部)・6研究科(左記の5研究科+地域イノベーション学研究科)が同一キャンパス

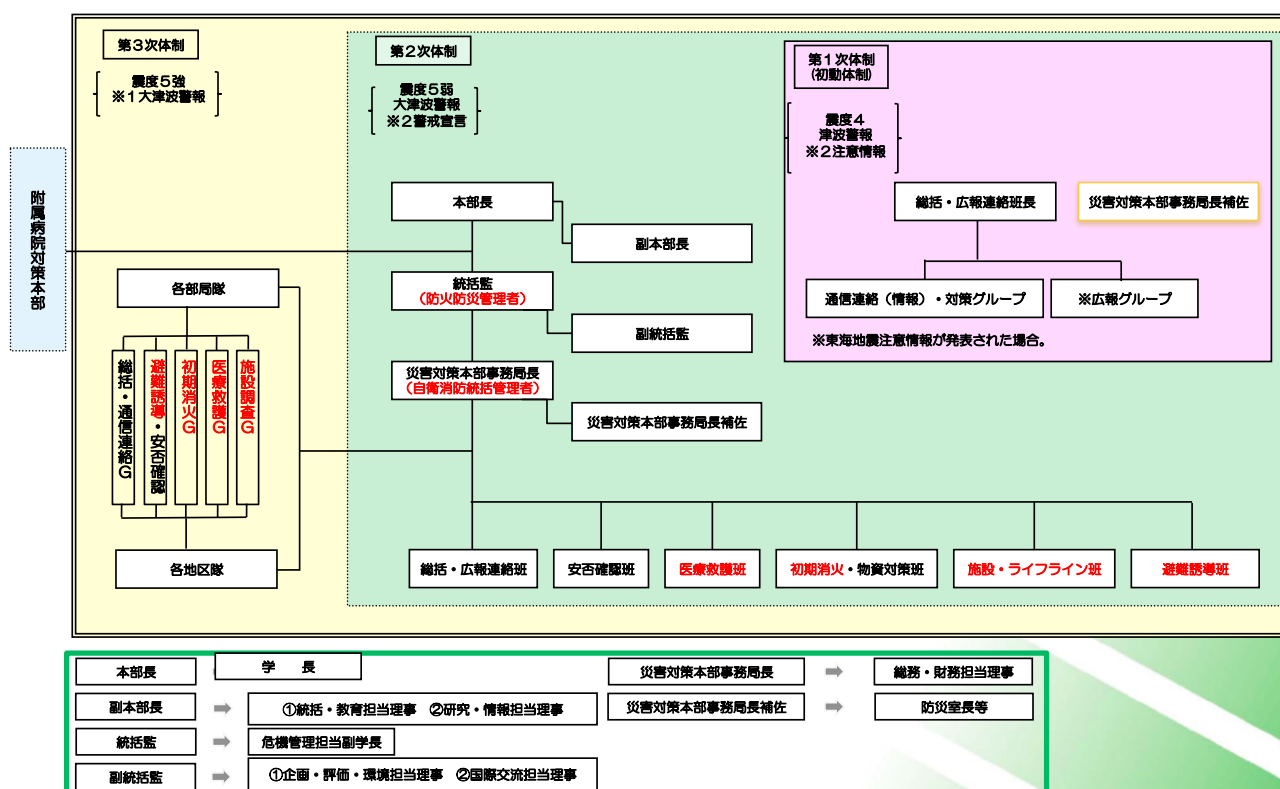


三重大学平常時の防災組織体制

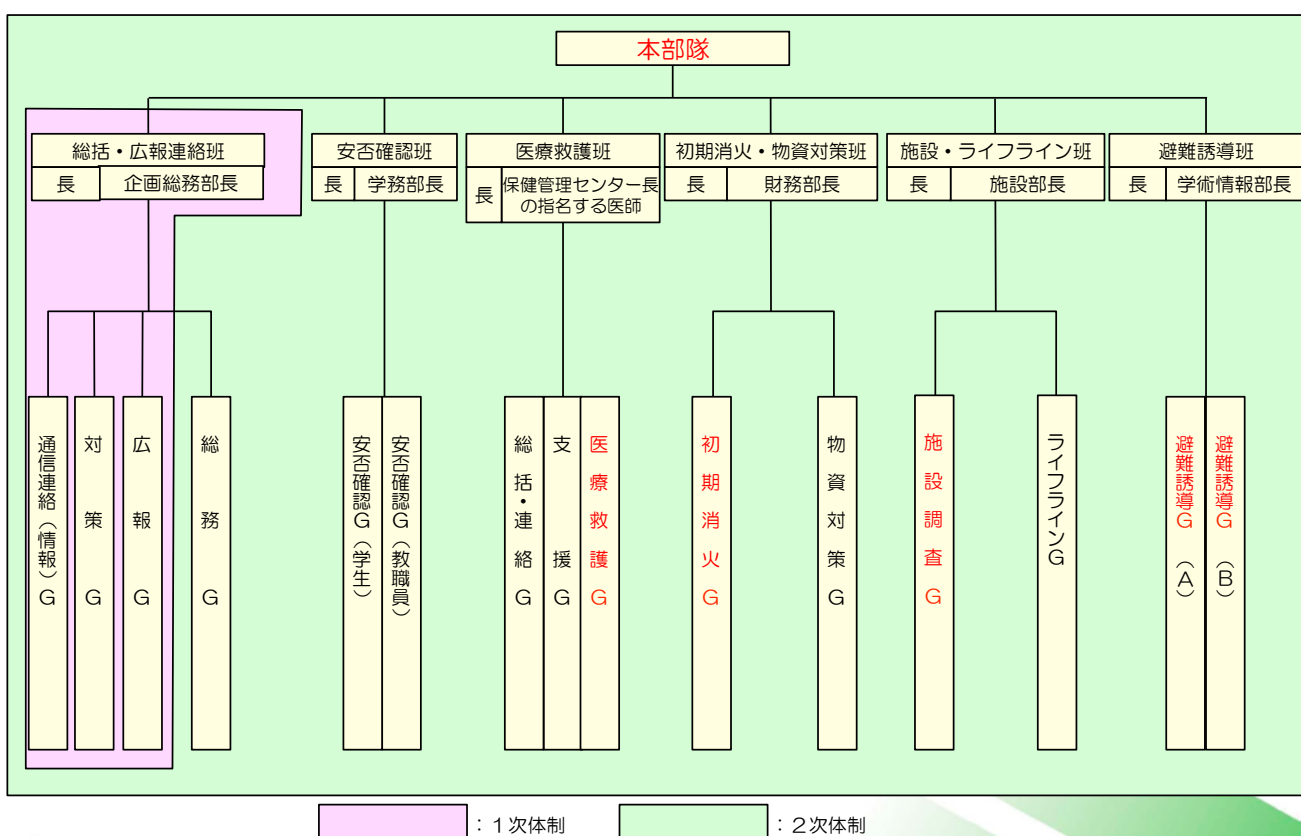
(H24.4.1新編)



三重大学災害対策本部組織「総括表」（三重大学危機管理マニュアル抜粋）



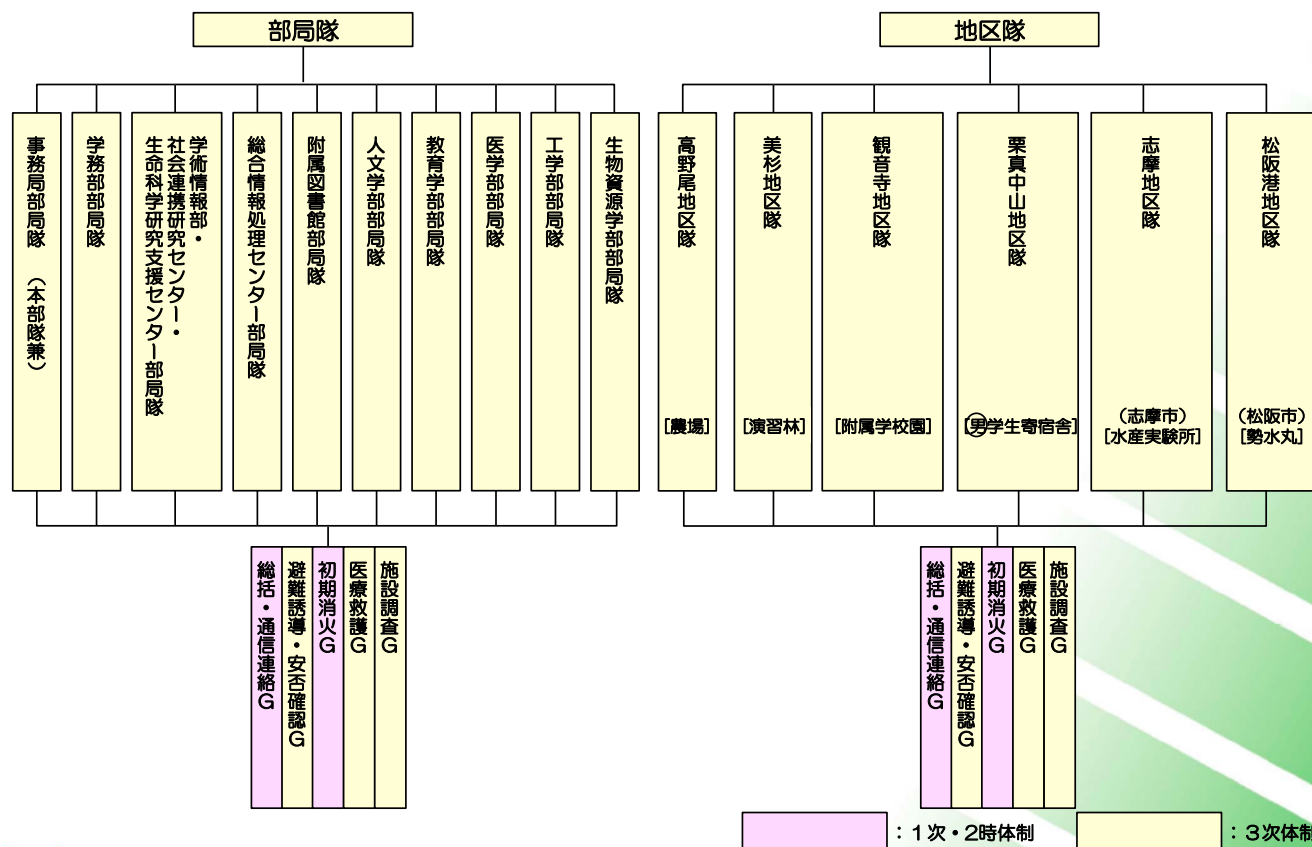
三重大学災害対策本部本部隊（三重大学危機管理マニュアル抜粋）



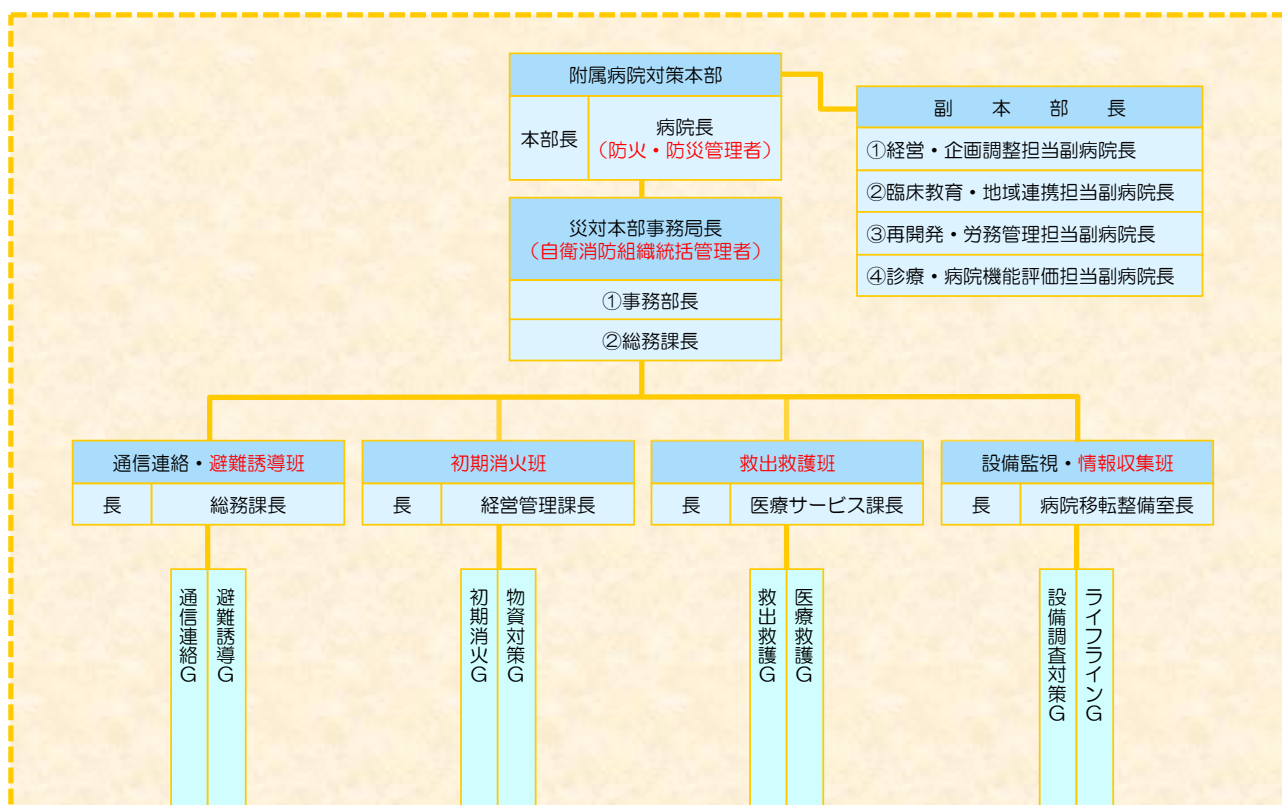
：1次体制

：2次体制

三重大学災害対策本部部局隊・地区隊（三重大学危機管理マニュアル抜粋）



三重大学附属病院災害対策本部（三重大学危機管理マニュアル抜粋）



三重大学の初動等対応体制（参集体制）

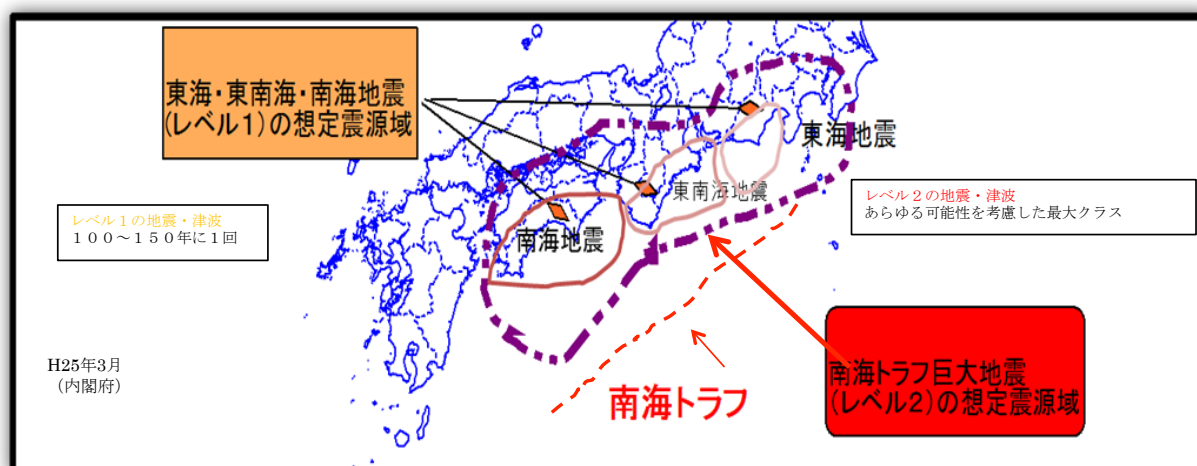
区分等		事象等		
		・津市域で震度4 ・津波警報 ・東海地震注意情報	・津市域で震度5弱 ・大津波警報 ・（東海地震警戒宣言）	・津市域で震度5強
体制		第1次体制 （初動体制）	第2次体制	第3次体制
災対本部（警戒本部） 等設置の要否		情報所	○ （警戒宣言時）	○
学内緊急一斉放送		○（津波警報時）	○	○
事務局等 構成員	学長		○	全 教 職 員
	各理事		○	
	危機管理担当副学長		○	
	企画総務部長	○	○	
	財務部（長）		○	
	学務部（長）		○	
	施設部（長）		○	
	学術情報部（長）		○	
	企画総務部		○	
	総務課	○	○	
	企画課	○	○	
	※1 広報室	○	○	
	防災室	○	○ ・防災アドバイザー	

※1 東海地震注意情報発表時

※2 状況により体制をとる。

※3 各部局隊及び地区隊：上記に準じた体制を取るものとする。

想定 南海トラフ巨大地震



南海トラフ巨大地震想定（内閣府H25年3月）

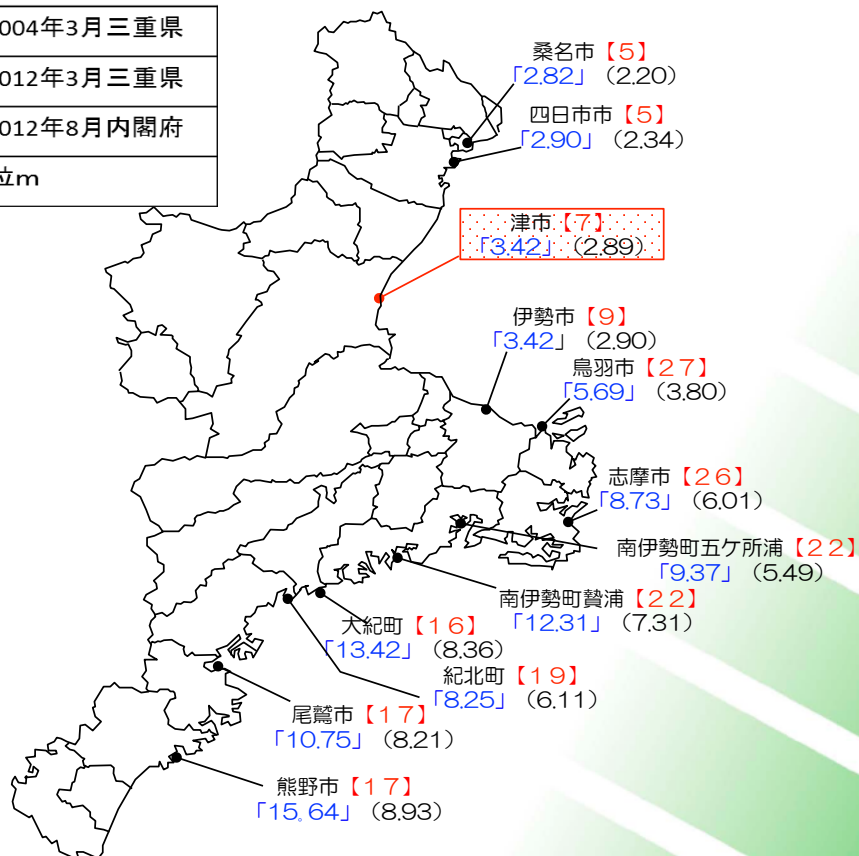
M9程度	最大震度	最大津波高	津波到達（1m）到達最短時間
津市	7	7 m	66分
志摩市	7	26 m	6分

南海トラフ巨大地震三重県の被害想定（三重県H26年3月）

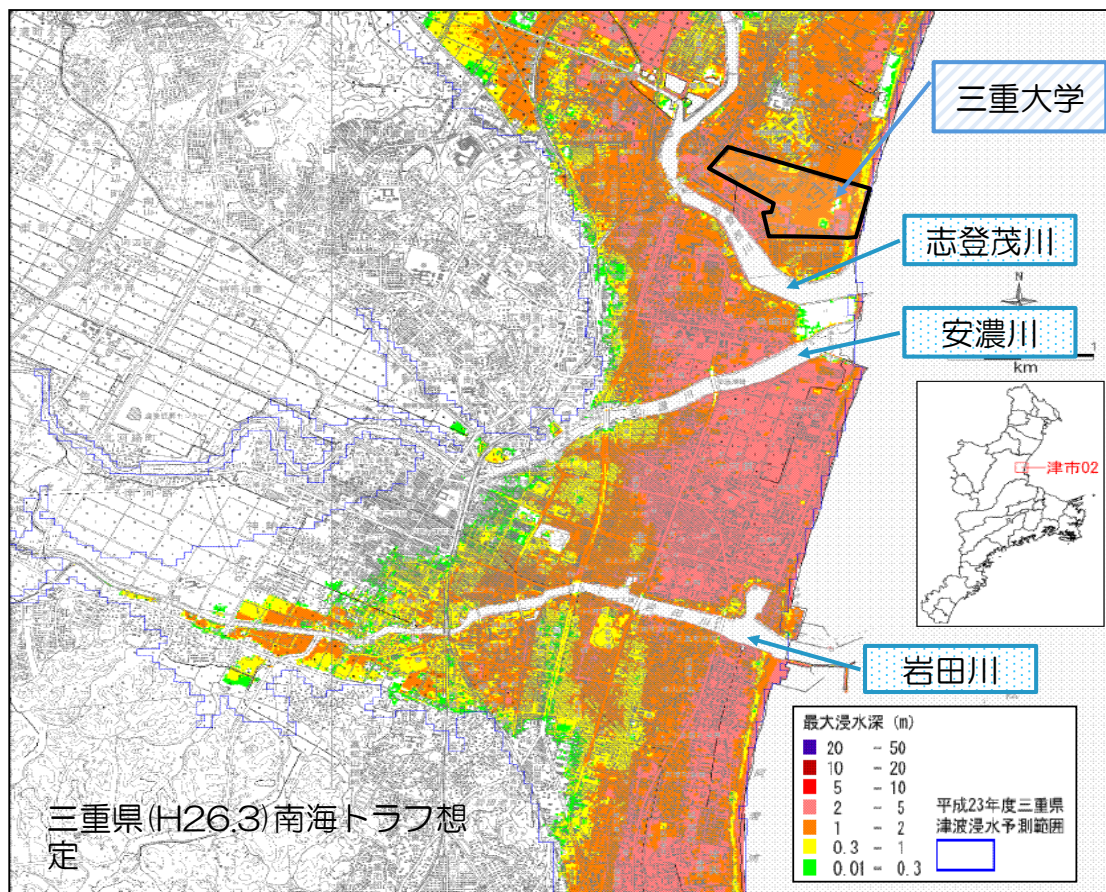
死者	建物倒壊	浸水面積	断水	停電	ガス供給停止
4.3万人	23.9万人	157平方キロ	170万人	110万軒	9.1万户

「南海トラフマグニチュード別：津波最大浸水想定（三重県内）」

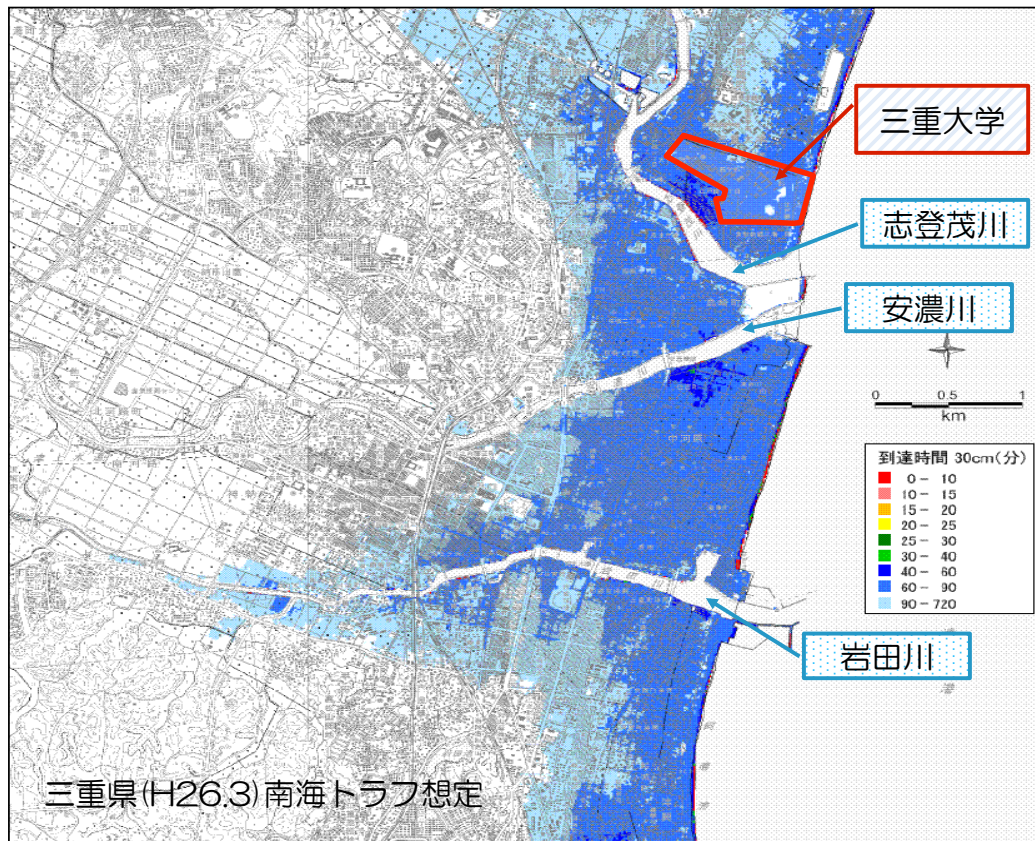
()内	M8. 7	2004年3月三重県
「」内	M9. 0	2012年3月三重県
【 】内	M9. 1	2012年8月内閣府
※ 単位m		



「南海トラフ津波浸水想定（津市）」《平成26年3月》「理論上想定値」

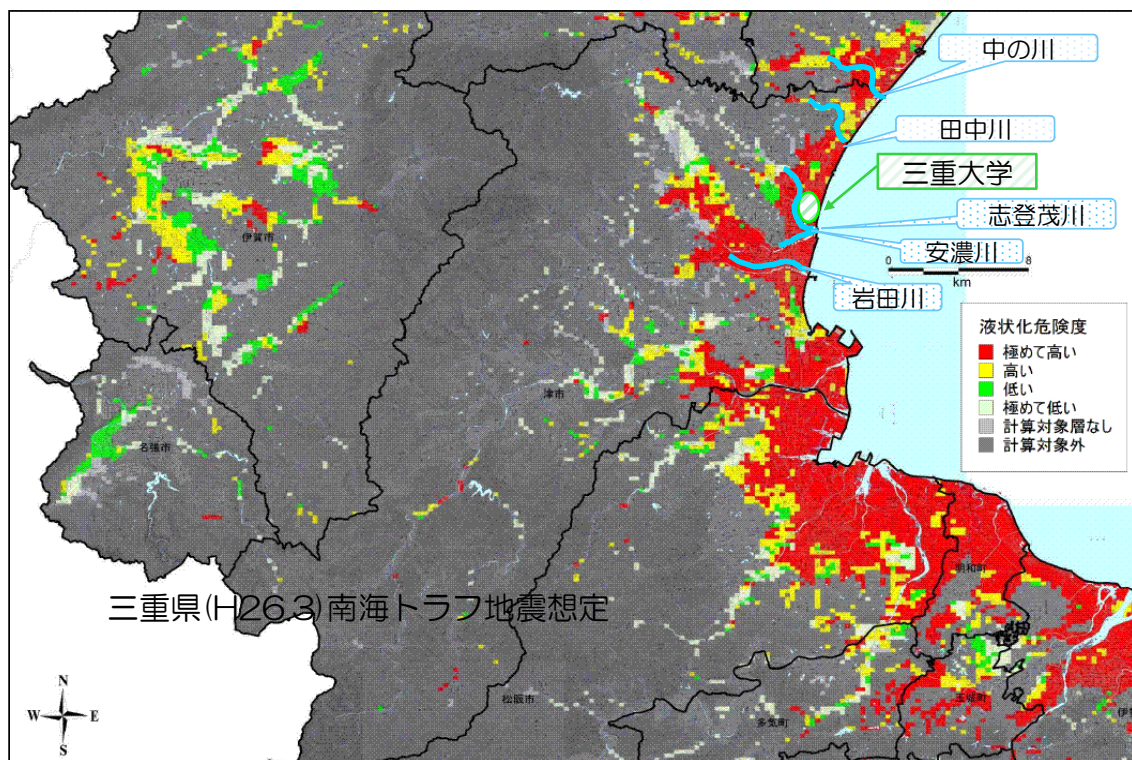


「南海トラフ津波浸水深30cm到達予想時間分布図（津市）」



液状化危険度（津市）

津管内



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像を複製したものである。（承認番号 平25情復、第813号）承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。

この図面の基図として用いている地図には、市町村合併前の地名が記載されている場合がありますので、ご了承ください。

警報注意報の分類	津波の高さ予想区分 数値による表現 (新)	表 現 (新)	津市災害対策本部の 避難勧告・指示等	大学の避難行動
津波警報 (大津波)	10m以上	巨大	避難指示	学外避難
	5m～10m			
	3m～5m			
津波警報 (津波)	1m～3m	大きい	避難勧告	学内避難
津波注意報	20cm～1m	大きい おそれ	無	海岸に近づかない

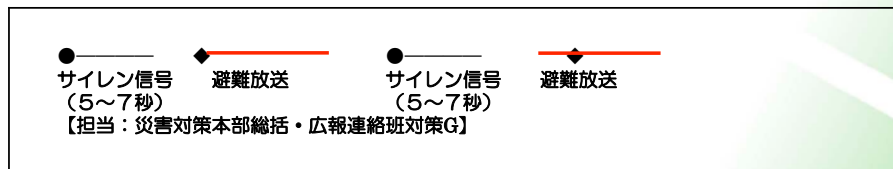
2 方 針

大学は、津波から学内所在者の生命、身体を保護するため、気象庁から津波警報（津波警報、大津波警報）が発表され、かつ、津市災害対策本部から避難勧告・指示が発せられた場合、学外又は学内の主要校舎棟（4F以上）に速やかに避難を実施する。

3 避難放送伝達・情報収集態勢

(1) 避難放送伝達手段

- ◆ 津市の防災行政無線、警鐘信号及びサイレン信号
- ◆ 大学の緊急放送システム、電話、衛星携帯電話、本部隊総括・広報連絡班広報Gによる避難放送（拡声器）
- **大学の緊急放送システム放送**は、次の要領による。



◆ 各部局隊等の人員による通伝動作（口頭伝達）

学内の避難放送を聞いた者は、速やかに近隣の者に通伝（口頭伝達）し避難行動に移行できるように徹底するものとする。

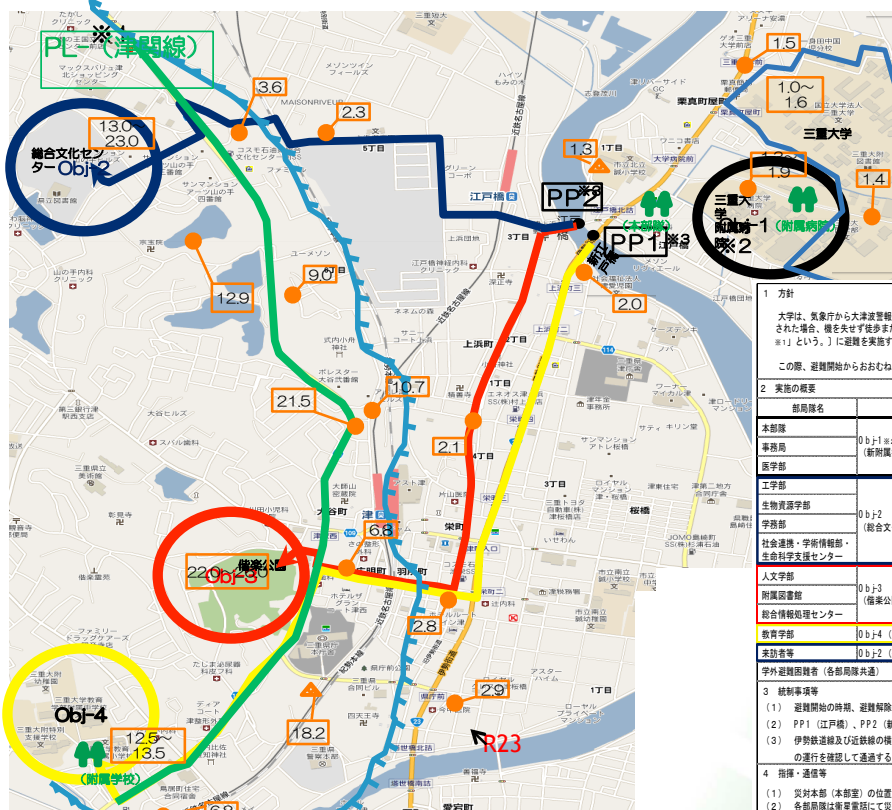
三重大学津波避難計画 学内避難】

部局隊等名	所属人員数	避難校舎 棟 階	避難可能 収容) 人員数 最大) (教員室、講義室、 演習室、管理部門、 階段・廊下、トイレ等含む)
本部室(災害対策本部)	192	本部管理棟 (4F・5F)	300
事務局部局隊		本部管理棟 (4F～屋上)	600
		病態医科学研究棟 (4F～9F)	
		小計	900
学務部部局隊	619 (学外者含む)	共通教育校舎 1号館 (4F)	1,200
		総合研究棟Ⅱ A棟 4・5Fペントハウス)	990
		総合研究棟Ⅱ B棟 (4・5Fペントハウス)	990
		国際女子学生宿舎 (4F)	520
		小計	3,700
学術情報部 社会連携研究 生命科学研究 支援センター部局隊	79	地域イノベーション研究開発拠点施設 (4 F・5F・屋上)	1300
総合情報処理センター部局隊	8		
附属図書館部局隊	33		
地域イノベーション研究開発拠点施設部局隊	50		
人文学部部局隊	1,380	人文学部校舎 (4F～屋上)	1000
		共通教育校舎 2号館 (4・5階)	540
		共通教育校舎 4号館 (4・5階)	600
		小計	2,140
教育学部部局隊	1,130	教育学部校舎 1号館 (4F～屋上)	2,000
医学部部局隊	4,648	病態医科学研究棟 (4F～9F)	6,000
		先端医科学教育研究棟 6F)	1,100
		看護学科棟 (4F～6F)	3,500
		小計	10,600
工学部部局隊	2,538	分子素材棟 (4F)	970
		機械創成棟 (4F)	920
		電子情報棟 (4F)	900
		総合研究棟Ⅰ (4F)	1800
		建築棟 院生棟 (4F)	320
		情報工学科校舎 (4F・5F)	900
		第1合同棟 (4・5F)	1,100
		第2合同棟 (4・5・6F)	2,000
		小計	8,910
生物資源学部部局隊	1,541	生物資源校舎 (4F～屋上)	13,800
予 備		先端医科学教育研究棟 6F以上)	
合 計	12,218		43,350
部外者・来訪者等	時間内	所在棟 4F以上	
	休日等	学外 県総合文化センター)	

津波避難建物配置図「4F以上」（各部局隊色別避難建物）



三重大学津波基本計画【学外避難】



1 方針			
大学は、気象庁から津波警報が発せられ、かつ津波災害対策本部より避難指示等が発令された場合、機を失わず徒歩または二輪車にて学外等（津波線以西の地域：「PL」（統制線）※1）という。）に避難を実施する。 この際、避難開始からおおむね1時間を目標に避難を完了する。			
2 実施の概要			
部局名称	避難地域	予備	避難経路等
本部長	0b-1※2		学内
事務局	(新附属病院：5F)		
庶務部			附属農場
工学部	0b-2 (総合化学センター等)		
生物資源学部			学内
社会学部	0b-2		
社会学部・社会学情報・生命科学支援センター			附属農場
社会学部	0b-3 (海浜公園一帯)		
社会学部	0b-3		学内
社会学部	0b-4 (附属学校一帯)		
社会学部	0b-4		附属農場
社会学部	0b-5		
社会学部	0b-6		学内
社会学部	0b-7 (総合化学センター一帯)		
社会学部	0b-7		附属農場
社会学部	0b-8		
社会学部	0b-9		学内
社会学部	0b-10		
社会学部	0b-11		附属農場
社会学部	0b-12		
社会学部	0b-13		学内
社会学部	0b-14		
社会学部	0b-15		附属農場
社会学部	0b-16		
社会学部	0b-17		学内
社会学部	0b-18		
社会学部	0b-19		附属農場
社会学部	0b-20		
社会学部	0b-21		学内
社会学部	0b-22		
社会学部	0b-23		附属農場
社会学部	0b-24		
社会学部	0b-25		学内
社会学部	0b-26		
社会学部	0b-27		附属農場
社会学部	0b-28		
社会学部	0b-29		学内
社会学部	0b-30		
社会学部	0b-31		附属農場
社会学部	0b-32		
社会学部	0b-33		学内
社会学部	0b-34		
社会学部	0b-35		附属農場
社会学部	0b-36		
社会学部	0b-37		学内
社会学部	0b-38		
社会学部	0b-39		附属農場
社会学部	0b-40		
社会学部	0b-41		学内
社会学部	0b-42		
社会学部	0b-43		附属農場
社会学部	0b-44		
社会学部	0b-45		学内
社会学部	0b-46		
社会学部	0b-47		附属農場
社会学部	0b-48		
社会学部	0b-49		学内
社会学部	0b-50		
社会学部	0b-51		附属農場
社会学部	0b-52		
社会学部	0b-53		学内
社会学部	0b-54		
社会学部	0b-55		附属農場
社会学部	0b-56		
社会学部	0b-57		学内
社会学部	0b-58		
社会学部	0b-59		附属農場
社会学部	0b-60		
社会学部	0b-61		学内
社会学部	0b-62		
社会学部	0b-63		附属農場
社会学部	0b-64		
社会学部	0b-65		学内
社会学部	0b-66		
社会学部	0b-67		附属農場
社会学部	0b-68		
社会学部	0b-69		学内
社会学部	0b-70		
社会学部	0b-71		附属農場
社会学部	0b-72		
社会学部	0b-73		学内
社会学部	0b-74		
社会学部	0b-75		附属農場
社会学部	0b-76		
社会学部	0b-77		学内
社会学部	0b-78		
社会学部	0b-79		附属農場
社会学部	0b-80		
社会学部	0b-81		学内
社会学部	0b-82		
社会学部	0b-83		附属農場
社会学部	0b-84		
社会学部	0b-85		学内
社会学部	0b-86		
社会学部	0b-87		附属農場
社会学部	0b-88		
社会学部	0b-89		学内
社会学部	0b-90		
社会学部	0b-91		附属農場
社会学部	0b-92		
社会学部	0b-93		学内
社会学部	0b-94		
社会学部	0b-95		附属農場
社会学部	0b-96		
社会学部	0b-97		学内
社会学部	0b-98		
社会学部	0b-99		附属農場
社会学部	0b-100		
社会学部	0b-101		学内
社会学部	0b-102		
社会学部	0b-103		附属農場
社会学部	0b-104		
社会学部	0b-105		学内
社会学部	0b-106		
社会学部	0b-107		附属農場
社会学部	0b-108		
社会学部	0b-109		学内
社会学部	0b-110		
社会学部	0b-111		附属農場
社会学部	0b-112		
社会学部	0b-113		学内
社会学部	0b-114		
社会学部	0b-115		附属農場
社会学部	0b-116		
社会学部	0b-117		学内
社会学部	0b-118		
社会学部	0b-119		附属農場
社会学部	0b-120		
社会学部	0b-121		学内
社会学部	0b-122		
社会学部	0b-123		附属農場
社会学部	0b-124		
社会学部	0b-125		学内
社会学部	0b-126		
社会学部	0b-127		附属農場
社会学部	0b-128		
社会学部	0b-129		学内
社会学部	0b-130		
社会学部	0b-131		附属農場
社会学部	0b-132		
社会学部	0b-133		学内
社会学部	0b-134		
社会学部	0b-135		附属農場
社会学部	0b-136		
社会学部	0b-137		学内
社会学部	0b-138		
社会学部	0b-139		附属農場
社会学部	0b-140		
社会学部	0b-141		学内
社会学部	0b-142		
社会学部	0b-143		附属農場
社会学部	0b-144		
社会学部	0b-145		学内
社会学部	0b-146		
社会学部	0b-147		附属農場
社会学部	0b-148		
社会学部	0b-149		学内
社会学部	0b-150		
社会学部	0b-151		附属農場
社会学部	0b-152		
社会学部	0b-153		学内
社会学部	0b-154		
社会学部	0b-155		附属農場
社会学部	0b-156		
社会学部	0b-157		学内
社会学部	0b-158		
社会学部	0b-159		附属農場
社会学部	0b-160		
社会学部	0b-161		学内
社会学部	0b-162		
社会学部	0b-163		附属農場
社会学部	0b-164		
社会学部	0b-165		学内
社会学部	0b-166		
社会学部	0b-167		附属農場
社会学部	0b-168		
社会学部	0b-169		学内
社会学部	0b-170		
社会学部	0b-171		附属農場
社会学部	0b-172		
社会学部	0b-173		学内
社会学部	0b-174		
社会学部	0b-175		附属農場
社会学部	0b-176		
社会学部	0b-177		学内
社会学部	0b-178		
社会学部	0b-179		附属農場
社会学部	0b-180		
社会学部	0b-181		学内
社会学部	0b-182		
社会学部	0b-183		附属農場
社会学部	0b-184		
社会学部	0b-185		学内
社会学部	0b-186		
社会学部	0b-187		附属農場
社会学部	0b-188		
社会学部	0b-189		学内
社会学部	0b-190		
社会学部	0b-191		附属農場
社会学部	0b-192		
社会学部	0b-193		学内
社会学部	0b-194		
社会学部	0b-195		附属農場
社会学部	0b-196		
社会学部	0b-197		学内
社会学部	0b-198		
社会学部	0b-199		附属農場
社会学部	0b-200		
社会学部	0b-201		学内
社会学部	0b-202		
社会学部	0b-203		附属農場
社会学部	0b-204		
社会学部	0b-205		学内
社会学部	0b-206		
社会学部	0b-207		附属農場
社会学部	0b-208		
社会学部	0b-209		学内
社会学部	0b-210		
社会学部	0b-211		附属農場
社会学部	0b-212		
社会学部	0b-213		学内
社会学部	0b-214		
社会学部	0b-215		附属農場
社会学部	0b-216		
社会学部	0b-217		学内
社会学部	0b-218		
社会学部	0b-219		附属農場
社会学部	0b-220		
社会学部	0b-221		学内
社会学部	0b-222		
社会学部	0b-223		附属農場
社会学部	0b-224		
社会学部	0b-225		学内
社会学部	0b-226		
社会学部	0b-227		附属農場
社会学部	0b-228		
社会学部	0b-229		学内
社会学部	0b-230		
社会学部	0b-231		附属農場
社会学部	0b-232		
社会学部	0b-233		学内
社会学部	0b-234		
社会学部	0b-235		附属農場
社会学部	0b-236		
社会学部	0b-237		学内
社会学部	0b-238		
社会学部	0b-239		附属農場
社会学部	0b-240		
社会学部	0b-241		学内
社会学部	0b-242		
社会学部	0b-243		附属農場
社会学部	0b-244		
社会学部	0b-245		学内
社会学部	0b-246		
社会学部	0b-247		附属農場
社会学部	0b-248		
社会学部	0b-249		学内
社会学部	0b-250		
社会学部	0b-251		附属農場
社会学部	0b-252		
社会学部	0b-253		学内
社会学部	0b-254		
社会学部	0b-255		附属農場
社会学部	0b-256		
社会学部	0b-257		学内
社会学部	0b-258		
社会学部	0b-259		附属農場
社会学部	0b-260		
社会学部	0b-261		学内
社会学部	0b-262		
社会学部	0b-263		附属農場
社会学部	0b-264		
社会学部	0b-265		学内
社会学部	0b-266		
社会学部	0b-267		附属農場
社会学部	0b-268		
社会学部	0b-269		学内
社会学部	0b-270		
社会学部	0b-271		附属農場
社会学部	0b-272		
社会学部	0b-273		学内
社会学部	0b-274		
社会学部	0b-275		附属農場
社会学部	0b-276		
社会学部	0b-277		学内
社会学部	0b-278		
社会学部	0b-279		附属農場
社会学部	0b-280		
社会学部	0b-281		学内
社会学部	0b-282		
社会学部	0b-283		附属農場
社会学部	0b-284		
社会学部	0b-285		学内
社会学部	0b-286		
社会学部	0b-287		附属農場
社会学部	0b-288		
社会学部	0b-289		学内
社会学部	0b-290		
社会学部	0b-291		附属農場
社会学部	0b-292		
社会学部	0b-293		学内
社会学部	0b-294		
社会学部	0b-295		附属農場
社会学部	0b-296		
社会学部	0b-297		学内
社会学部	0b-298		
社会学部	0b-299		附属農場
社会学部	0b-300		
社会学部	0b-301		学内
社会学部	0b-302		
社会学部	0b-303		附属農場
社会学部	0b-304		
社会学部	0b-305		学内
社会学部	0b-306		
社会学部	0b-307		附属農場
社会学部	0b-308		
社会学部	0b-309		学内
社会学部	0b-310		
社会学部	0b-311		附属農場
社会学部	0b-312		
社会学部	0b-313		学内
社会学部	0b-314		
社会学部	0b-315		附属農場
社会学部	0b-316		
社会学部	0b-317		学内
社会学部	0b-318		
社会学部	0b-319		附属農場
社会学部	0b-		

三重大学津波避難計画 学外避難が困難な場合】

部局隊等名	所属人員数	避難校舎（棟 階）	避難可能 収容） 人員数（最大） （教員室、講義室、 演習室、管理部門、 階段・廊下、トイレ内等含む）
本部室（災害対策本部）	192	本部管理棟 6F	300
事務局部局隊		本部管理棟 屋上） 病態医科学研究棟（4F～9F）	600
		小計	900
学務部部局隊	619 （学外者含む）	総合研究棟Ⅱ A棟（ベントハウス） 総合研究棟Ⅱ B棟（ベントハウス） 本部管理棟（5F・屋上）	20 40 350
		生物資源学部校舎（5F）	1,000
		小計	1,410
学術情報部・社会連携研究・生命科学研究 支援センター部局隊	79	地域イノベーション研究開発拠点施設 （5F・屋上）	850
総合情報処理センター部局隊	8		
附属図書館部局隊	33		
地域イノベーション研究開発拠点施設部局隊	50		
人文学部部局隊	1,380	人文学部校舎（5F・屋上）	700
		共通教育校舎1号館（屋上）	500
		共通教育校舎2号館（6階）	270
		共通教育校舎4号館（6階）	300
		生物資源学部校舎（5F）	1,000
		小計	2,770
教育学部部局隊	1,130	教育学部校舎1号館（屋上）	200
		生物資源校舎（5F）	1,800
		小計	2,000
医学部部局隊	4,648	病態医科学研究棟（5F～9F） 看護学科棟（5F～6F）	5,000 2,300
		小計	7,300
工学部部局隊	2,538	情報工学科校舎（5F） 第1合同棟（5F） 第2合同棟（5F） 先端医科学教育研究棟（5F）	450 450 1,300 500
		小計	2,700
生物資源学部部局隊	1,541	生物資源校舎（5F～屋上） 人文学部部局隊及び部外者等（5F）	7,200
		先端医科学教育研究棟（5F以上）	
予 備			
合計	12,218		25,130
部外者・来訪者等		所在棟5F・無一生物資源校舎（5F）	



津波避難建物配置図「5F以上」《学外避難困難な場合》（各部局隊色別避難建物）



南海トラフ巨大地震・津波に備える 中期防災体制整備大綱・防災訓練の取り組みについて

- 三重大学中期防災体制整備大綱（H21～H26）
- 三重大学防災訓練実施成果（要約）（H21～H24）
- 平成25年度 三重大学防災訓練実施大綱
- 平成26年度 三重大学防災訓練実施大綱



三重大学中期防災体制整備大綱（平成21年度～平成23年度）

20. 4. 1 (修正)
21. 11. 9
D1M0 学内防災

三重大学中期防災体制整備大綱（平成21年度～平成23年度）

年度・区分		21年度		22年度		23年度	
区 分		前期	後期	前期	後期	前期	後期
◆ 年度目標	● 大目標	◎ 災害対策取り組み体制の充実		◎ 災害対策取り組み体制の充実・強化		◎ 災害対策取り組み体制の強化・拡充	
	● 中目標	● 図上訓練のやり方の習得		■ 実践的訓練による対応能力の向上		■ 実践的訓練による対応能力の均一化（本部・各局）	
	● 対応能力	● 災害対策本部活動の概要を習得		■ 訓練を通じた学生・教職員の防災意識の向上		■ 防災意識と対応能力向上のマッチング	
	● マニュアル等	● 危機管理マニュアル等の修正		● 訓練等検証による危機管理マニュアルの完成		● 訓練検証等による防災計画・マニュアルの見直し	
◆ 教育訓練	● 資器材の整備	● ○学内一斉放送設備の整備		○ 避難経路等の標示、地図台・地図の整備		● 関係機関等との連携体制の強化	
	● 連携体制			● 関係機関等との連携体制の強化		● 関係機関等との連携体制の強化	
	● 人材の育成			○ 人材の育成		■ 人材育成の拡充	
	● その他					● 中期防災体制整備計画の見直し	
◆ 防災体制基盤 (訓練基盤の整備)	● 共通	■ 普及活動		■ 普及啓発活動の強化（消防法改正を含む。）		■ 普及啓発活動の強化	
	● 事務局「本部隊（仮称）」	● 分野別訓練 「事務局（初動体制班） 図上訓練」		● 本部隊運営図上訓練 ◇ 本部隊運営図上訓練 ◇ 応急対策現地訓練（消 火・救出・救護・津波避難、 負傷者搬送）		○ 本部隊運営図上訓練 （災害本部が有する主要機 能等を訓練） ● 本部隊運営図上訓練 （22年度訓練の拡充） ○ 津波避難訓練	
	● 各学部等「部局隊（仮称）」	● 総合防災訓練 「災害本部運営図上 訓練、応急対策現地 訓練」		○ 部局隊運営図上訓練 （モデル学部による。?）		○ 部局隊等運営図上訓練 （全部局） ○ 津波避難訓練	
	● 防災に関する計画・マニュアルの 整備	● 危機管理マニュアル の見直し （消防法改正に伴い 消防計画に統合・整合化）		● 危機管理マニュアル改訂版（案）（消防計画）の修正・ 完成 ■ 必要に応じ本部隊各班のマニュアルの作成 （参集・情報活動・応急対策活動・安否確認・本部員会 議・通信連絡・医療救護・広域応援活動拠点開設・避難対 策・帰宅困難対策マニュアル等）		● 危機管理マニュアル（消防計画）の見直し ○ 必要に応じ各班・部局隊等のマニュアルの作成・修正 ■ 津波避難計画の作成準備	
◆ 防災体制基盤 (訓練基盤の整備)	● 資器材等の整備	● 一斉放送設備の整備 ● 自家発電機の整備		○ 食糧・飲料水の備蓄 ○ 災害本部資器材の整備（地図・地図台等） ○ 非常時の通信連絡手段の整備 ○ 「避難場所・経路」の案内表示板の整備		■ 食糧・飲料水の継続的備蓄 ○ 災害本部資器材の継続的整備 ○ 非常時の通信連絡手段の整備 ○ 「避難場所・経路」の案内表示板の整備	
	● 各局・関係機関との連携体制 の確保 (防災に関する会議等)	● 説明会3回 ● 連絡会議1回		● 連絡会議の充実・強化 ● 関係機関との会合		● 連絡会議の充実・強化 ● 関係機関との会合等の強化	

※ 凡例：● 既実施事項 ■ 50%以上達成事項 ○ 未達成事項



24. 4. 1
防 災 室

区 分		年度・区分		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
◆ 年度目標	◇ 大目標		◎ 災害対策取り組み体制の充実		◎ 防災体制の充実・強化		◎ 防災体制の強化・拡充		
	■ 中目標	訓練実施要領	● 図上訓練のやり方の習得（学部）		● 図上訓練のやり方の習得（全部局等）				
		対応能力	● 災害対策本部活動の概要を習得		● 実践的訓練による対応能力の向上		○ 実践的訓練による対応能力の均一化（本部・各局局）		
		防災意識	● 学生・教職員の防災意識向上の動機付け		● 訓練を通じて学生・教職員の防災意識の向上		○ 防災意識と対応能力向上のマッチング		
		マニュアル等	● 危機管理マニュアル等の見直し・修正		● 訓練等検証による危機管理マニュアルの完成		○ 訓練検証等による防災計画・マニュアルの見直し		
		資器材の整備	● 避難経路等の標識案内の整備		○ 学内一斉放送設備の再検討		○ 安否確認システムの導入検討		
		連携体制	■ 関係機関等との連携体制の強化		● 関係機関等との連携体制の強化		○ 関係機関等との連携体制の強化		
その他				○ 人材の育成（防災担い手の養成・確保）		○ 中期防災体制整備計画の見直し			
◆ 教育訓練	■ 共通		● 普及活動（防災研修会 昼間 1 ヶ月）		● 普及啓発活動の強化（6 回以上／年：防災研修会） 「新 1 年：オリエンテーションの活用」		○ 普及啓発活動の強化（新採防災研修時） 「新 1 年：オリエンテーションの活用」		
	■ 事務局「本部隊」	● 分野別訓練 ・ 初動体制班図上訓練 ・ 津波避難訓練等		● 総合防災訓練 「災对本部運営図上訓練、津波避難等応急対策実動訓練（消火・負傷者搬送・救護所開設・トリアージ等）」		● 本部隊運営図上訓練 ● 総合防災訓練 ◇ 本部隊・部局隊運営図上訓練		○ 本部隊運営図上訓練 ○ 災对本部が有する主要機能等を訓練 ○ 部局隊等運営図上訓練	
	■ 各学部等「部局隊」	● 津波避難訓練（学外）		● 津波避難訓練等				※ 25 年度の成果を踏まえ設定	
			● 部局隊運営図上訓練（モデル学部による。）						
◆ 防災体制基盤 （訓練基盤の整備）	■ 防災に関する計画・マニュアルの整備		● 訓練等検証に基づく、津波避難計画の作成 ■ 必要に応じ各班・部局隊等のマニュアルの作成・修正		● 危機管理マニュアルの継続的整備 必要に応じ本部隊各班のマニュアルの作成 ● B C P 作成準備		○ 危機管理マニュアル等の継続的整備 ○ 三重大学 B C P の策定 ○ 三重大学 N B C 対応マニュアルの策定		
	■ 資器材・食料備蓄等の整備		■ 一斉放送設備端末機の増設 ● 自家発電機の整備・訓練検証 ● 食料・飲料水、生活用品等の備蓄（4 年目／5 年計画） [1 1 . 0 0 0 食、7 . 0 0 0 本（5 0 0 m l）備蓄]		● 食糧・飲料水等の継続的備蓄（5 年目／5 年計画） 通信資器材の整備、E M 閉じ込め者対策等 ○ 災对本部資器材の整備（地図・地図台等） ○ 緊急放送システムの再検討		○ 食糧・飲料水の継続的備蓄 「次年度以降、逐次更新を要する。」 ○ 災对本部資器材の継続的整備		
	■ 各部局・関係機関との連携体制の確保 （防災に関する会議等）		● 訓練等説明会 3 回 ● 連絡会議 2 回 ● 防災室 WG・安否確認 WG 等		● 訓練等説明会 5 回 ● 連絡会議 2 回 ● 防災室 WG・安否確認 WG 等		● 連絡会議の充実・強化 ● 関係機関との連携強化（県・津市含む地市町・防災機関）		
							○ 連絡会議の充実・強化 ○ 関係機関との連携強化		



MIE UNIVERSITY

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度			
目的	大地震発生初期時における災害対策本部の設置及び避難体制確立段階時に事務局が担当する業務について習得させる。	大地震発生初期時において、災害対策本部の設置から初動体制確立までの期間中、全当分の業務、及び本部会議運営（会議の進行管理、発表内容等）について習得させる。	三重大学危機管理マニュアルに示す「災害対策本部組織図」各役を分担して、東海、東南海、南海地震の同時発生を想定し、各地区が連携して危機管理マニュアルに基づく、初動体制確立時の各々が実施すべき業務等について訓練・検証する。	東海地方から伊勢湾に大津波警報が発せられる場合を想定し、全学（上浜キャンパス）の学生、教職員、等を対象とした避難行動を訓練して、その避難要請を体得するとともに、三重大津波避難計画（案）の実効性を検証する。	大規模地震発生時（東海・東南海、南海9.0超地震）M7.0以上における実況訓練及び「東南海地震対策見舞い」7.0以上の対応能力の向上を図るとともに、関係マニュアルの実効性を検証する。		
日時	9月14日(月)	10月30日(金) 12月17日(木)	9月1日(水) 12月7日(火)	12月7日(水) 9月3日(月)AM 12月10日(月)AM・PM			
想定	● 地震のタイプ 東海・東南海連続型 ● M8.3 ● 震度 津市 6強 ● 津波警報	● 地震のタイプ 東海・東南海・南海3連動型 ● M8.7 ● 震度 津市 6強 ● 津波警報	● 地震のタイプ 東海・東南海・南海3連動型 ● M9.0 ● 震度 津市 6強 ● 大津波警報	● 地震のタイプ 東海・東南海・南海3連動型 ● M7.9 ● 震度 津市 6強 ● 津波警報			
主要訓練項目内容等	○県上訓練 1 災害対策本部の設置 2 情報伝達活動（情報の収集・処理）の実施 3 応急対策の検討 4 学生等の安否確認・対話 5 応援要請内容の検討	○県上訓練 1 災害対策本部開会 2 情報伝達活動 3 応急対策活動 4 学生等の安否確認・対話 5 事務局内各部署の連携要請	○県上訓練 1 情報伝達活動（収集・整理・提供） 2 応急対策の立案・処置等 3 救急活動（シミュレーション） 4 応急対策本部の運営	○県上訓練 1 災害対策本部の設置・運営訓練 2 情報伝達活動 3 安否確認活動 4 広域警戒活動	○県上訓練 1 災害対策本部の設置・運営訓練 2 情報伝達活動 3 安否確認活動 4 広域警戒活動		
	○実践訓練 1 消火活動、救出活動 2 避難行動（3F以上）	○実践訓練 1 消火活動、救出活動 2 避難行動（3F以上）	○実践訓練 1 津波避難訓練（室内3F以上） 2 初期消火訓練（防火戸・シャッター閉鎖訓練を含む。） 3 救急活動（エレベーター閉じ込め者の救出要請） 4 応急対策本部開設訓練 5 負傷者搬送訓練	○実践訓練 1 津波避難訓練（室外） 2 避難経路上の危険場所の把握	○実践訓練 1 津波避難訓練（室外） 2 避難経路上の危険場所の把握		
参加者	65人	65人	70人	400人	450人	550人	560人
参加部署等	・「災害対策本部事務局」の関係部署（初動体制要員主体）・DIMO	・「災害対策本部事務局」の関係部署（初動体制・二次体制要員） ・DIMO	学長、各理事、各学部長、各事務局（専務局、各学部支援課、国際交流課、保健衛生課、危機管理課、広報課）、DIMO	防災担当学部長、本学理事・監事、本部事務局【危機管理マニュアル（改訂版（案））に示す災害対策本部本部連絡先】（消防火口、避難誘導係を除く。）、状況付班・各部署等、附属機関、DMO	学長・本学理事・監事等、各学部長、国際学部長、本部事務局、関係部署等、本部事務局等、指定学部、原則として全部局等・DMO・各部署、附属機関	学長・危機管理担当学部長、全部局長（関係病院を除く。）、教職員、学生（任意参加）、松坂地区反応隊、総括・広報課所属安否確認班、物理防護班、各部局属、附属病院、防災室、DMO、電氣市	学長・危機管理担当学部長、事務局長学生、教職員全員を対象とし、松坂地区反応隊、広報連絡班、安否確認班、物理防護班、ライフライン班、学部事務局、附属病院、DMO、防災室、津市、電氣市
備考					9月末実施（台風接近のため）		


MIE UNIVERSITY

方針

三重大学は、改正消防法及び文科省平成25年度総合防災訓練大綱（依頼）に基づき、南海トラフを震源とする東海・東南海・南海地震の時間差（短時間）発生時の対応を関係防災機関等と実践的に2回訓練して、その能力向上を図り三重大学消防計画、危機管理マニュアル等の実効性を検証するとともに、三重大学事業継続計画（BCPマニュアル骨子）策定の資を得る。

区 分	I 防災訓練（図上訓練）	II 防災訓練（実動訓練）
◇ 訓練目的（想定）	南海トラフを震源とする東海・東南海・南海地震の時間差（短時間）発生（M8.7クラス、津市震度7、津波浸水1m～4m三重大学を含め津市沿岸部）を想定した図上訓練を実施し、主として初動時～重要事項決定「津波避難～病院機能移転決定等」までの三重大学災害対策本部（附属病院災対本部含む。）の情報活動、応急対策の検討・実行、関係機関等との情報受け伝達・応急対策の調整、災对本部会議の運営等を総合的に訓練して対処能力の向上を図る。 ※大学・附属病院が孤立する等の最悪の状況を想定する。	9月実施の図上訓練想定・状況を引き続き準用して、実動により津波避難行動、初期消火活動、物資配分、附属病院・災害拠点病院機能の継続（仮設診療所の開設・運営要領等）の訓練を実施する。この際、仮設診療所の開設・運営訓練にあたっては、関係防災機関の参加を得て協働連携要領を訓練し、その実行（効）性を検証するとともに、BCP策定の資を得る。
◇ 実施時期等	平成25年9月3日（火）10:00～15:00	平成25年12月10日（火）10:00～16:00
◇ 主要訓練項目	① 災对本部設置訓練 災对本部室（学長室）、本部隊（本部管理棟等）、各学部部局隊本部（各学部校舎棟）、各地区隊本部（各地区隊管理棟）内に各本部を設置する。 ◆ 本部室は、電力使用不可の状況とし自家発電装置を使用して電源を確保する。 病院災対部（病院長等室）の機能を病院に設置する。	① 津波避難訓練（AM） 江戸橋構梁等が破壊・崩落し徒歩での渡河が困難な状況時の避難要領を実動で検証する。（三重大学津波避難基本計画参照：校舎5F以上に避難）「全学生、教職員を対象として訓練する。」 昨年同様、1時限授業終了後の、休憩時間を活用して避難訓練を実施する。
◇ 訓練実施概要等	② 災对本部運営訓練 ・情報活動 応急対策に関わる情報ニーズの決定、応急対策の検討、応援要請の検討、本部員会議の資料作成等応急対策に関わる一連の活動について訓練する。 ・応急対策活動 応急対策に関わる情報ニーズの決定、応急対策の検討、応援要請の検討、本部員会議の資料作成等応急対策に関わる一連の活動について訓練する。 ・安否確認活動 学生、教職員の安否確認要領について訓練する。 ・広報活動 学生、教職員に対する呼び掛け文の作成等広報活動の諸業務について訓練する。 ・本部員会議 本部会議開催に関する本部員、本部構成各班との調整、会議の議事進行要領、各班等の発表内容の準備・報告等について訓練する。	② 消火訓練（AM） 事務局棟から出火の想定でもって、初期消火の要領を訓練する。「事務局職員を対象に訓練する。」 ③ 物資配分訓練（AM） 事務局棟所在教職員に対して、津波避難時に飲料水・食糧を配分する。 ④ 仮設診療所の開設・運営訓練（PM） ◆ 附属病院の入院患者に対する医療活動の継続及び災害拠点病院としての負傷者の医療救護活動を関係機関と協働して訓練する。特に、附属病院仮設診療所と自衛隊収容所、日赤看護班（施設）との役割分担、大学医療看護班の支援要領等を訓練・検証する。 ◆ 海保・県航空隊の航空機及び北消防署の救急車による患者等搬送時の受け入れ要領を訓練する。 ※ 模擬患者（生体）は、各部局等から支援を受ける。
◇ 編 成	訓練統轄監 川口防災アドバイザー、橋本監事 評価者 川口防災アドバイザー、橋本監事 参加部局等 〇三重大学危機管理マニュアル「災害対策本部機構」に基づく編成とする。 危機管理担当副学長、各理事、事務局各部、各学部、附属病院、附属農場、演習林、附属学校 協働訓練機関 三重県災害対策部、津市防災室、尾鷲市防災危機管理室	危機管理担当副学長、各理事、川口防災アドバイザー、橋本監事、附属病院長 〇津波避難訓練：全学生、教職員 〇消火・物資配分訓練：事務局各部、防災室 〇仮設診療所の開設・運営訓練：附属病院、各部局、保健管理センター、防災室 陸上自衛隊第33普通科連隊、第4管区海上保安本部中部空港海上保安基地、 三重県（防災対策部等）、三重県防災航空隊、津市北消防署、日本赤十字社三重県支部

仮設診療所の運営訓練
三重大病院 移動手術車も動員

県の災害拠点病院となった（医師らと実践的な）の三重大病院は、津市にある津市の三重大医学部附属病院は10日、県や陸上自衛隊、津市北消防署、日本赤十字社津支部と協働し、災害時の野外病院となる三重大仮設診療所の運営訓練を同日午後、津市北消防署の同大、愛知産業大学津市校の第10後方支援連隊衛生隊の移動手術車も動員し、病院



移動手術車と搬送患者の手術訓練をする三重大の医師ら＝津市

佐 経（22画）

被災患者の受け入れ訓練
三重大 南海トラフ想定し医師ら



搬送されてきた患者役に処置を施す医師たち＝津市の三重大で

伊勢湾に面する津市の三重大で、南海トラフの巨大地震を想定した訓練があり、構内にある三重大病院の医師らが被災患者の受け入れ訓練を実施した。大学のほか津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

本部や陸上自衛隊、日赤赤十字部から百五十人が参加。マグニチュード（M）9.0の地震の津波で構内が浸水し、病院での治療が難しくなるとの想定で、応急の患者受け入れ訓練を実施した。津市消防急の野外病院となるデ

平成26年度 三重大学防災訓練実施大綱

方針

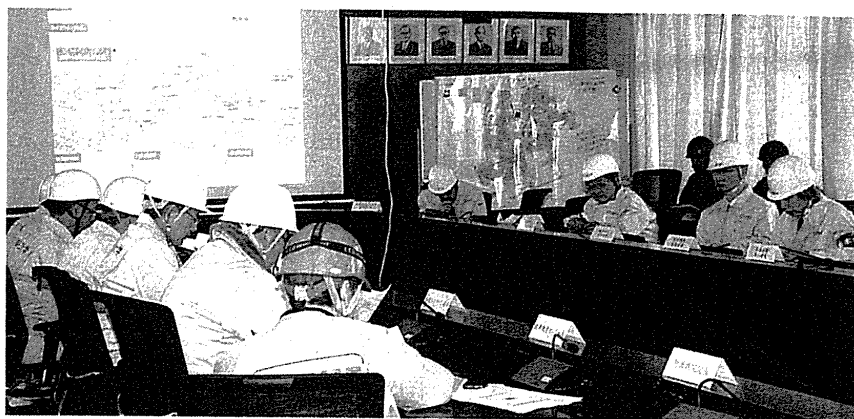
三重大学は、改正消防法及び文科省平成26年度総合防災訓練大綱（依頼）に基づき、南海トラフ地震発生時の応急対応活動等について2回訓練し、その対応能力の向上を図るとともに三重大学消防計画及び危機管理マニュアル等の実効性を検証する。また、図上訓練を通じて三重大学業務継続計画（MU-BCP）の策定のための資を得る。

区 分		Ⅰ 防災訓練（図上・実動訓練）		Ⅱ 防災訓練（図上・実動訓練）	
◇ 訓練目的（想定）等		南海トラフ地震の発生（M9.0、津市震度7、津波浸水1m～4m三重大学を含め津市沿岸部）を想定した図上訓練を実施し、主として初期態勢確立段階までの主要機能について訓練し、その対応能力の向上を期する。 また、図上訓練終了後、初期消火訓練、エレベーター内閉じ込め者救出訓練を実施して、それぞれの対応能力の向上を図る。 ※ 大学・附属病院エリアが津波浸水・液状化により、孤立する等の最悪の状況を想定する。		9月実施の図上訓練想定・状況に引き続き、その後の対応、特に、三重大学災害拠点病院機能の移転要領（医療チーム等）について図上訓練を実施し、応援防災機関との連携要領等を確認する等、その実行（効）性を検証するとともに三重大学BCP策定の資を得る。 なお、実動により別状況にて学生、教職員等全員を対象として津波避難行動（備蓄物資の配分）を実施し、避難場所・避難要領等に習熟させる。	
◇ 実施時期		平成26年9月3日（水）09：30～16：00		平成26年12月8日（月）09：30～16：00	
◇ 訓練区分		初動対応 図上訓練	災害対策本部設置・運営訓練	BCP 図上訓練	災害対策本部 運営訓練
◇ 主要訓練項目		◆ 災害対策本部機能発揮に必要な人員・資機材の配置・設置、本部会議の運営・応急対応活動の調整、関係部局・機関等との情報の受・伝達・共有要領、安否確認等災害本部が有する初動時の主要機能について訓練する。 ◆ 災対本部室（本部会議室）、本部隊（本部管理棟等）、各学部部局本部（各学部校舎棟）、各地区本部（各地区管理棟）内に各本部を設置する。 病院災対本部は、病院長計画により設置する。 ※ 本部室は、電力使用不可の状況とし、非常用電源設備（太陽光発電設備）及び自家発電装置を使用して電源を確保する。		◆ 初動対応に引き続き災害対策本部活動、特に、学生、教職員に対する情報提供・安否確認の継続、災害拠点病院としての機能維持のための移転要領（医療チーム等の既存の医療施設への搬送要領）、附属病院入院症患者等の他の医療機関への搬送要領、及び上浜キャンパス内の被害建物の応急危険度判定、保健衛生対応、帰宅困難者対応、学内情報システムの維持・復旧対応等を関係機関の協力・応援を得て、大学業務等の早期復旧・継続に向けた要領を訓練する。 ◆ 災害対策本部室等は左記に同じの他、総合研究棟Ⅱ、事務局棟5F等とする。 ※ 引き続き本部室は、電力使用不可の状況とし、非常用電源設備（太陽光発電設備）及び自家発電装置を使用して電源を確保する。	
◇ 実施概要		消火訓練	◆ 事務局棟から出火の想定でもって、初期消火の要領を訓練する。事務局等職員を対象に訓練する。」	津波避難訓練	◆ 江戸橋根等が破壊、崩落し徒歩での渡河が困難な状況時の避難要領を実動で検証する。（三重大学津波避難基本計画参照：校舎棟5F以上に避難）「全学生、教職員を対象として訓練する。」 昨年同様、1時間限業務終了後の、休憩時間を活用して避難訓練を実施する。※ マスネットによる防災アンカーの実施。
		エレベーター内閉じ込め者救出訓練	◆ 関係事業者の支援を受け、EVが階層の途中（停止階から65cm以上）で停止した場合の閉じ込め者の救出要領をマスターする。	物資配分訓練	津波避難時に備蓄飲料水・食糧を配分する訓練を実施する。
		三重大学長			
		川口防災アドバイザー、鈴木事務局長、橋本監事			
◇ 訓練統括監 評価者					
◇ 訓練編成等		◆ 図上訓練：危機管理担当副学長、各理事、事務局各部、各学部・研究科、附属病院、附属農場、附属学校（細部は、三重大学危機管理マニュアル「災害対策本部機構」に基づく。） ◆ 実動訓練：EV閉じ込め者救出訓練→全部局代表者 消火訓練→事務局各部等		◆ 図上訓練：危機管理担当副学長、各理事、事務局各部、各学部・研究科、附属病院、附属農場、附属学校（細部は、三重大学危機管理マニュアル「災害対策本部機構」に基づく。） ◆ 実動訓練：津波避難訓練→上浜キャンパス（附属病院関係者を除く。）学生、教職員全員を対象。 物資配分訓練→事務局各部	
		陸上自衛隊第33普通科連隊、三重県健康福祉部医療対策局、津市防災室、津市消防本部、尾鷲市防災危機管理室、津警察署、日本赤十字社三重県支部、藤田保健衛生大学、七葉サトリウム等			

大地震を想定した三重大（津市）の防災訓練が八日、同大構内であった。藤田保健衛生大（愛知県豊明市）と三日に締結した災害時協定をふまえ、災害拠点病院の機能を移転する図上訓練を初めて実施した。

マグニチュード（M）9の南海トラフ地震が起き、市内で震度7の揺れを観測して高さ四メートルの津波が来たという想定。三重大病院は災害拠点病院に指定されているが、海抜一・五メートルの沿岸部にあるため、負傷者が来られない。

病院機能移転を訓練 大地震を想定し初三重大→藤田保健大



図上訓練に取り組む参加者ら＝津市の三重大で

い。そこで、市内にある藤田保健衛生大七葉サナトリウムに拠点を移す図上訓練をした。ドクターヘリを使って約十五人の救急スタッフを先遣隊として七葉へ派遣。燃料節約のため、その後はヘリで三重大から人員と医療資機材を自衛隊久居駐屯地に送り、自衛隊の車両で七葉まで運ぶ一連の流れを確認した。図上訓練には両大の関係者のほか、消防や警察、自衛隊関係者ら約五十人が参加。三重大大学院工学研究科の川口淳准教授は「他機関との連携はうまくいったと思う。継続して取り組み、連携を広げていくことが大切と感じた」と講評した。この日はほかに、教職員や学生らが建物の上の階に避難する訓練もあった。

（堀内敦子）

災害対策主要備蓄物品(品名別)一覧表

品名	数量
ソーラー発電システム	10
自家発電機	2
発電機用ガスボンベ	144
投光器	4
ランタン	20
ランタン&トーチ	60
懐中電灯	24
衛星携帯電話	4
簡易無線機	13
ラジオ	28
ラジオ付きライト	6
プロパンガス	2
ガスコンロ	4
石油ストーブ	9
毛布	209
寝袋	30
段ボール組立トイレ	300
簡易トイレ	600
簡易トイレセット	10
担架	5
水用ポリタンク	18
食料	11550
飲料水(1.5リットル 500ml×18本入り)	603

※ 平成21年度末から備蓄を実施。

- EV内備蓄BX:40
- 太陽光発電システム×2か所

防災対策を目的志向にするには？

- ハザードを理解する
- リスクを見積もる
- 対策目標を設定する
- 対策を実施する（ハード・ソフト）
- 評価し目標を再設定する（PDCA）

まとめ

- 災害は、**想定どおりには発生しない**
- 出来る限り**いろいろなイメージ**を持ち、臨機応変に自分で対応する能力が必要
- そのために「答え」を知る教育・対策ではなく**答えに至る「プロセス」を大切**にする教育・対策に重点を置くこと
- **地域特性をきちんと考慮**した教育・対策を
- **繰り返し、継続して実施**すること

2011年3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震で被害を受けた皆さんに心よりお見舞い申し上げますとともに、命を落とされた方々のご冥福をお祈りいたします。

